

週刊  
**新社会**

**1月1日**



2019年号外  
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円  
http://www.sinsyakai.or.jp/  
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 三辰工業ビル 3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

**謹賀新年**  
**皆様に良い年を**

# 憲法無視改憲の動きに終止符を



館山市八幡海岸に浮かぶ日本丸の夕景（南房総市の小出一彦さん撮影）  
本紙 20 面にも同氏の別の構図の写真があります

## 2019年 野田市と議会の課題

# 自立心と「自己責任」の涵養大切

野田市の再興は簡単ではない。繰り返しになるが、雇用と収入を支えてきた企業城下町体制が崩れて久しく、町そのものが高齢化し、所得水準も大きく下がった。当然

購買力も低下した。

長い間一定の市民税を払って市の財政を潤してきた団塊の世代に代わる納税の主役が見えない。

直結鉄道の展望は依然として暗

## 道の駅の考え違いとひそむ甘さ

最近では道の駅をつくらうと考える議員が増えた。確かに地域活性化を狙ってのものだろうし、好調な道の駅もあるにはある。議員はそのようなモデルとなる道の駅を視察している。

しかし、考えてほしいのは民間は自己資金と借金で建設して営業している。しかし、道の駅は税金で建てられる。維持費や解体までの費用はその4～5倍もかかるといわれる。そこにも税が投入されるだろう。

これでは死に物狂いで何とかしようとの気持ちと、失敗したら借金を自分で払う思いは生まれにくい。

そしてその道の駅に農産物等、地元産品を提供し、一心同体となる生産者や住民がどれだけいるのかという課題もある。行政にお伺いを立てずに、行政の縛りを超える経営体をつくれるのだろうか。

### 議会の課題

## 二元代表制機能の発揮こそ

そして課題は議会だ。自分の支持者や支援団体とは話ができるとしても、それでは済まない。市長と並ぶ二元代表制という看板に恥じない、市民との意見交換が不可欠だ。野田市議会はこれを避けている。支持者と行政のパイプ役に

いし、それに頼ること自体が間違いだ。

もちろんこれは野田市だけの課題ではない。ほとんどの自治体はほぼ同じ課題で悩んでいる。

そこに一発逆転の秘策はない。一つひとつ、一人ひとりが積み重ねるしかない。誰かがやってくれるだろうで済む良き時代ではない。そもそも大企業や行政への依存心そのものが停滞を継続させる。自立心と本当の意味の自己責任をどうはぐくむかが今年も問われる。

そういうものができて初めて道の駅をつくらうとなる。ここを間違えると、道の駅をつくったのは良いけれどとなってしまう。

終わらず、広く市民に開かれた議会となり、市民の声を受けとめる体制構築に向けて動き出さなくてはならない。

そのためにも経験主義に陥らない学習と研鑽を、議員一人ひとりが積み重ねることが必要だ。

社会保障と防衛費は、「バターか大砲か」との比喩にたとえられる。安倍政権の下では「大砲」が選択された。

社会保障のためとの口実で消費税を上げて大企業や富裕層の減税に使われ、そして軍拡予算に回される。

現在はこのことは憲法の精神を裏切る行為だが、改憲されれば当たり前のこととなる。

沖縄の民意を強権で抑え込むことに対する怒り、ブラックな働き方と生活できない賃金、まともな仕事がないことに対する怒り、負

## 2019年とは

担増とサービス削減が続く福祉への不安、そして消費税の引上げ。

これらのことをひっくり返す。少なくともその流れを止める。支

持率頼みの安倍政権の巧妙な言葉に惑わされず、参議院選挙で思い知らせよう。

主権者は国民なのだと。政権は国民の暮らしと福祉を第一に考えるべきだと。

改憲論議に終止符を打とう。税の集め方と使い方、近隣諸国との付き合い方を考え抜こう。そして政治に向けて行動し、発言しよう。一人ひとりが。